

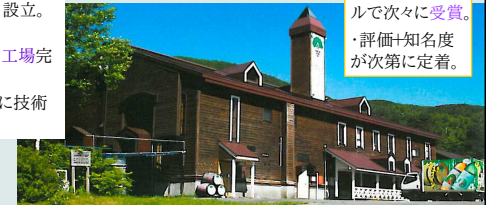


<ヤマブドウワインへの挑戦>

- ・1980, 北海道・池田町のワインづくりの成功に関心をもっていた町長の発案を受けて、林業課の若手職員をヤマブドウワインづくりの技術習得に派遣,2年間かけて学ぶ。
- ・1982, 自生ヤマブドウ探しに着手。多産個体を選別。山梨県のワイン会社で初試作。
- ・1985, 苗木の大量生産に成功。町内の有志農家に栽培委託。

・2003・4,「葛巻ワイン」が各地の国際コンクールで次々に受賞。
・評価+知名度が次第に定着。

- ・1986, ヤマブドウワインを第2の柱にすべく、第三セクター「葛巻高原食品加工」設立。特用林産加工部門を吸収。
- ・1987, 町東端の平庭高原にワイン工場完成(林業構造改善事業)
- ・当初の評判は悪かったが、めげずに技術研さんを継続。



<特産品開発>

- ・1983,町の「山地農業多角化計画」に沿って、レストラン開業。
- ・特用林産品(山菜,ヤマブドウなど)の加工・販売に次々に着手。
- ・1985,「くずまき自然食品」発売。
- ・大分県の「一村一品運動」が手本に。



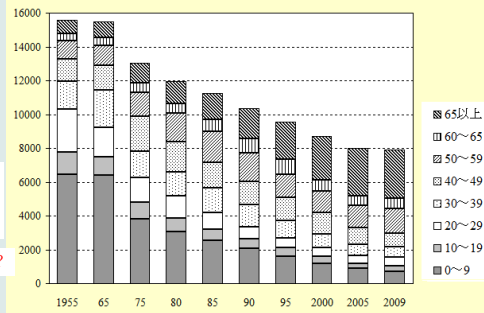
●くずまきワイン
醸造された山ぶどうをふんだんに使い、フルーティで高級な香りで人気急上昇中です。
レアリタイ(黒) 辛口/720ml
選りすぐりの山ぶどう100%地産した最高級ワイン。酸味と香りの調和がとれたクオリティです。
山ぶどうワイン(紫) 辛口/720ml・360ml
山ぶどう100%で醸造した山ぶどう特有の酸味と香りの程合いな本醸造ワインです。
山ぶどう白(白) 辛口/720ml・360ml
醸造した山ぶどうを特徴づけくずまきが誇る山ぶどうの個性をフルに活かした山ぶどうワインです。
フォーレ(黒) 辛口/720ml・360ml

葛巻町の地域開発の流れ

- ・戦前は馬産地。軍馬放牧地あ。
- ・戦後その跡地を町が買い取り植林...これが今の高原牧場に。

・1955以降の人口推移⇒
1960~75年:-18.3%
1975~2000年:-33.1%

・1965年まで減少率が小さかった要因は?



<牧場・畜産開発>

亀地宏 2006『株式会社「葛巻町」の挑戦』秀作社出版

- ・1975, 新全総の北上山系開発事業で1,100haの牧草を開発。「人より牛が多い町」に。
- ・1976, 第三セクター葛巻町畜産開発公社設立。牛の放牧受託(1頭1日500円)を開始。
- ・1977, 冬場の仕事確保のため,子牛の周年哺育,買い取り肥育にも乗り出す。
- ・小岩井農場より技術者派遣,技術習得。

- ・1981, 成牛の全国販売に乗り出す。
- ・他方で,他県からの肥育受託にも着手
- ・夏も涼やかなヤマセの風土のため良質の牛に育つとの評価が,次第に全国に浸透。
- ・牛舎も120頭×4棟に拡大。
- ・1982, 不妊牛,雄牛を有効利用するため精肉販売業免許を取得。

<体験ツーリズムへの展開>

- ・1991, 牛肉自由化で打撃。多角化路線をさらに推進。
 - ・1993, 「グリーンテージ」設立。総合運動施設開設
 - ・1994, 焼肉レストラン, 95, 交流体験施設「プラト」開業
 - ・1996, 乳製品加工の許可取得。ミルクプラント。
- 同年4月, 牧場全体を「くずまき高原牧場」に名称変更。
宅配牛乳, 町内から盛岡まで2,600件。



★2005年実績

・三セク3社の年間販売額17.7億(純益5000万円),
雇用170人(Uターン若者70),年間入込数50万人,

・視察250件,5,000人
・エネルギー自給率180%

<エネルギー自給へ>

- ・1999年,「くずまき高原牧場」に創設からかわり,各種事業を担った中村哲雄専務理事が新町長に当選。
- ・「環境エネルギーの町」を宣言。
- ・前年,エコパワー社から風力発電建設の打診を受けて調査中。
- ・1999年6月,最初の3基が完成。
- ・2001年,役場に環境エネルギー政策課
- ・2001年,電源開発の12基が完成。
- ・2003,家畜排泄物のバイオマス発電施設稼働
- ・2005年,木質バイオマス発電施設稼働

・この活力は森林組合にも波及。
...三セク施設に町産材を利用。知名度アップで「企業の森」に続々申し込み。



<http://www.town.kuzumaki.iwate.jp/doss/201511/600146/>

2009. 2.26

＜学習拠点の開設＞

岩手・葛巻子ども環境研

NPO法人岩手子ども環境研究所（岩手県葛巻町）は3月、生活に必要なエネルギーを太陽光などで創「エコキャビン」づくりの一環で、子ども対象の体験スクールを同町内で開く。

パネル準備など体験

エコキャビンは、電力が自給可能な太陽光発電の設備の導入、本年度から3カ年計画で施設整備などを実施しており、スクールでは積極的に取り入れる太陽光パネルの取組、自然エネルギーについて子どもも学ぶ。

施設は研究所が運営するエコスクール（通称「こまごま」）の敷地内にあり、昨年11月に完成。昨年11月に、約400人の子どもたち、約100人の大人が参加して、約500坪の太陽光発電の設備を整備し、体験スクールを開設した。

約400坪の敷地に、約400坪の太陽光発電の設備を整備し、体験スクールを開設した。

60646

★葛巻に学ぶ「東北」の未来

① 不利な立地を「特性」に
② 指導者の夢と力
③ 付加価値を生む工夫
④ 本物づくりへの努力

⑤ 交流人口の獲得
⑥ 自然エネルギーの開発
⑦ 住民各層の参画
⑧ 地域文化の創造と発信

作って学ぼう
太陽光発電